



慶良間諸島国立公園

慶良間諸島国立公園は、多様なサンゴ礁生態系、ザトウクジラの繁殖海域、ケラマブルーと称される透明度の高い海域、大小30余りの島々や岩礁、サンゴやホズナのかげらからできた遠浅の白い砂浜といった、陸と海が連続して一体となった雄大で実に多様な景観を有していることから、平成26年3月5日に31番目の国立公園として指定されました。本国立公園では、ダイビングやシュノーケリング等のエコツアーや冬季にはホエールウォッチングも楽しむことができます。



シンポジウムに関する問い合わせ先
国連大学 サステナビリティ高等研究所
<http://ias.unu.edu/jp/>
03-5467-1212
geoc@unu.edu



国際生物多様性の日 シンポジウム

2014年5月22日(木) 国連大学 (5F)
14:00~17:00 エリザベス・ローズ会議場

主催: 環境省、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)、
地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

協力: 国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

後援: 国際花と緑の博覧会記念協会

「つながりと個性を活かした
自然と共生する島づくり」



毎年5月22日の国際生物多様性の日には、世界中で生物多様性保全のメッセージを伝えるイベントが行われています。今年のテーマは「島嶼の生物多様性」。日本は多くの島嶼からなる島国です。島々が持つ固有の自然や文化（個性）は、それぞれが「つながり」を持って、地域の生活や豊かな自然を支えてきました。このシンポジウムでは、専門家によるお話とパネルディスカッションを交え、島国ならではの多様な個性とつながりをどのように活かすことができるのか、また、それをどのように持続可能な島づくりにつなげることができるのかについて、学び、考えます。

基調講演・コーディネーター・パネリストの方々

武内 和彦
たけうち かずひこ



国連大学上級副学長
1974年東京大学理学部地理学科卒業、1976年同大学院農学系研究科修士課程修了。東京都立大学助手、東京大学農学部助教授、同アジア生物資源環境研究センター教授を経て、1997年より2012年まで同大学院農学系研究科教授。2005年より東京大学サステイナビリティ学連携研究機構（IR3S）副機構長、2008年より国際連合大学（UNU）副学長、2009年より同サステイナビリティと平和研究所（UNU-ISP）所長を併任。2012年より東京大学サステイナビリティ学連携研究機構（IR3S）機構長・教授、2013年より国際連合大学（UNU）上級副学長。国際学術誌Sustainability Science（Springer）編集委員、中央環境審議会会長、食料・農業・農村政策審議会会長代理などを兼任。

涌井 史郎
わくい しろう



東京都市大学環境学部教授
岐阜県立森林文化アカデミー学長
UNDB-J 委員長代理
造園家・ランドスケープアーキテクト。1945年、神奈川県鎌倉市生まれ。多摩田園都市などのまちづくり、ハウステンボスなどの都市計画、農村・水源地域の活性化計画などを手がける。「愛・地球博」（2005年）では、会場演出総合プロデューサー、国連生物多様性の10年日本委員会委員長代理、首都高大规模改修検討会委員長、などを歴任。著書には、NHK「景観から見た日本の心」、三省堂「奇跡と希望の松」、KKベストセラーズ「いなしの智恵」等多数。

桜井 泰憲
さくらい やすのり



北海道大学大学院水産科学研究院特任教授
専門分野は、海洋生態学、水産海洋学（タラ類、イカ・タコ類の繁殖生態と資源変動機構、気候変化と亜寒帯海洋生態系変動に関する国際共同研究、北極海の魚類生態、海産物の飼育技術開発など）。岐阜県高山市出身。北海道大学水産学部水産増殖学科卒業・同大学院水産科学研究科博士課程修了。北海道大学水産学部助手・助教授、同大学院水産科学研究院教授、副研究員を経て、特任教授。この間に、国際顕足類諮問機構委員、日本GLOBEC（地球規模での海洋生態系変動）委員長、知床世界自然遺産地域科学委員会委員、同海域ワーキング座長、中央環境審議会臨時委員、水産海洋学会会長、日本水産学会副会長を歴任。受賞歴は、「水産海洋学会・宇田賞」、「水産学会・進歩賞」、「環境保全功労賞」。著書に、「海洋保全生態学」、「オホーツクの生態とその保全」、「水産海洋学入門」など。

古瀬 浩史
ふるせ こうじ



自然教育研究センター取締役
1980年代後半より、自然公園施設のインテプリター（教育普及の担当職員）としての仕事を開始。1989年（株）自然教育研究センターの設立に参加。環境教育やインテプリテーションに関する計画やプログラム開発、指導者の養成等に携わる。伊豆諸島や小笠原では、自然公園施設の運営、インテプリターの養成などの業務に従事。2014年からは帝京科学大学アニマルサイエンス学科教授。

神田 優
かんだ まさる



NPO法人黒潮実感センター長
1966年、高知市生まれ。高知大学農学部栽培漁業学科卒業後、東京大学海洋研究所で大学院博士課程修了。農学博士。専門は魚類生態学。高知大学客員准教授、神戸大学非常勤講師兼任。四国の西南端、高知県大月町柏島に「島が丸ごと博物館」という構想の元、海のフィールド・ミュージアムを作ろうと98年に単身柏島に乗り込み、2002年NPO法人黒潮実感センターを立ち上げる。島の自然と人の暮らしが両立する、持続可能な里海づくりに挑戦中。2010年第6回エコツーリズム大賞、2012年第5回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）受賞など。

鯨本 あつこ
いさもと あつこ



離島経済新聞社社長兼編集長
1982年大分県日田市出身。地方誌編集者、広告ディレクター、イラストレーター等を経て、2010年10月に離島経済新聞社を設立。離島専門メディア「離島経済新聞」タブロイド紙「季刊ritokei」編集長。他にも「世田谷くみん手帖」「奄美群島時々新聞」など地域メディアプロデューサーに携わる。2012年グッドデザイン賞、ロハスデザイン大賞受賞。世田谷区のポータルサイト「世田谷くみん手帖」や奄美群島のフリーペーパー「奄美群島時々新聞」等の地域メディア、石垣島に縁のあるクリエイターを振り起こす「石垣島Creative Flag」プロジェクトのプロデューサーに携わる。

前里 佐喜二郎
まえざと さきじろう



奄美市市民部長
昭和52年4月旧名瀬市役所に入庁。事務職員として市民課を皮切りに土木課、教育委員会総務課、人事秘書課、総務課職員係長、袖観課観光・スポーツアイランド係長、都市計画課長補佐兼管理係長、都市計画課長補佐兼まちづくり推進係長を経て、平成19年4月商工水産課長に就任し、地元商店街振興の為にプレミアム商品券を発行。平成22年4月には総務課長に就任、その年の10月発生した奄美豪雨災害時は防災担当課長としての役割も担った。平成25年4月から市民部長。

プログラム

| | |
|---------------|--|
| 13:30 ~ 14:00 | 開場・受付 |
| 14:00 ~ 14:05 | 開会挨拶 牧原 秀樹 環境大臣政務官 |
| 14:05 ~ 14:10 | ビデオメッセージ ブラウリオ・フェレイラ・デ・ソウザ・ジラス 生物多様性条約事務局長 |
| 14:10 ~ 14:40 | 基調講演 「慶良間諸島国立公園から見るレジリエントな島づくり」 武内 和彦 国連大学上級副学長 |
| 14:40 ~ 15:40 | 事例報告 「知床・対馬・三陸の海 ~つながり~」 桜井 泰憲 北海道大学大学院教授 「足摺宇和海国立公園 柏島における多様な個性をつなぐ持続可能な里海づくり」 神田 優 NPO法人黒潮実感センター長 「結（ゆい）の島奄美」 前里 佐喜二郎 奄美市市民部長 |
| 15:40 ~ 15:55 | 休憩 |
| 15:55 ~ 17:00 | パネルディスカッション テーマ 「つながりと個性を活かした 自然と共生する島づくり」 コーディネーター 涌井 史郎 東京都市大学環境学部教授、岐阜県立森林文化アカデミー学長、UNDB-J委員長代理 パネリスト 武内 和彦 国連大学上級副学長 神田 優 NPO法人黒潮実感センター長 古瀬 浩史 自然教育研究センター 取締役 鯨本 あつこ 離島経済新聞社 社長兼編集長 |
| 17:00 | 閉会 |